

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000101	事業の開始年月日	平成21年4月16日
		指定年月日	令和3年4月16日
法人名	社会福祉法人プレマ会		
事業所名	グループホーム そよ風		
所在地	(242-0028) 神奈川県大和市桜森3-4-4		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年12月21日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・そよ風はこの地域において、運営13年目を迎えております。運営初年度から参加をしておりました自治会の行事や会議は、昨年度より開催が無く参加出来ていません。それでも地域との関わり合いは、普段の挨拶を交わす事で繋がっており、良好の関係性を保っております。

・地域の商店から仕入れた食材を活かし、日々皆様に美味しく召し上がっていただけるよう、食事に工夫をしております。

・今年度も引き続きコロナ禍において、散歩や外食等の外出イベントが思う様に実施出来ていませんが、施設内イベントでも充実出来るよう工夫をしています。

※外出イベントは、緊急事態宣言の合間にお花見や宮ヶ瀬ドライブを無事に開催しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年1月25日	評価機関 評価決定日	令和4年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「相模大塚」駅下車徒歩2分のところにあります。建物は1階に保育園、2～3階の2ユニットの事業所です。駅から近く、途中神社があり落ち着いた住宅地の一角にあります。階下の保育園をはじめ、周囲にはスーパーマーケットやレストラン、公園、梅林、郵便局、商店など豊富な社会資源のある便利なところ。近くには同一法人の特別養護老人ホームがあります。

<優れている点>

開設してから経験豊富な職員を擁し、職員は皆仕事に誇りを持ち、利用者一人ひとりを愛し、利用者のあるがままを尊重し、自由で穏やかな暮らしを支援しています。現在利用者の半数以上が90歳を超え、100歳以上の人が数名います。事業所への往診医は内科や歯科の他精神科や形成外科、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科など外診の必要なく往診医で対応が来ています。利用者、家族はもとより職員も安心安全な手厚い医療支援に努めています。新鮮な野菜や魚肉類はそれぞれ地元商店から仕入れ、利用者の好みや形態に合わせて、職員の手作り料理を提供しています。それぞれの商店とは開設より交流を持ち、すっかり馴染みとなっています。職員の研修プログラムを確立し、外部より講師を招くなど職員のスキルアップとサービスの向上、人材の育成に取り組んでいます。

<工夫点>

事故対策、認知症、感染症などの各種の専門委員会があり職員一人ひとりが各委員となり、事業運営の一翼を担い専門性を職場で発揮しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	2階 さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に沿ったユニット目標を皆で考え、ユニット会議で毎月検討しながら実践に繋げている。	法人の理念を踏まえて、事業所独自に介護の理念を皆で相談して作っています。理念をもとに年度目標を掲げて実践に努めています。介護に迷った時は法人の理念に立ち返って確認をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で外出も制限されているが、近くの神社への散歩等で出会った地域の方と、挨拶を交わしたりしている。	町内会に加入しています。コロナ禍では近所の散歩に留まっていますが、途中には地域の人達とのふれあいがあります。毎日の食材は地域の商店から新鮮な野菜や魚などをそれぞれ店から仕入れ、開設以来馴染みとなり交流を続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症介護の発信として、小学校の授業に参加した。 また映画（介護映画）の上映会を開催する活動を、大和市を含めて行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で紙面での開催となっているが、ユニット内でのサービスや取組み等、運営推進会議で発信している。	運営推進会議の委員は自治会、地区社協、法人会、老人会などの代表、民生委員、地域包括支援センター担当、家族です。委員との対面会議は自粛しています。コロナ禍では2ヶ月ごとに内部の書面会議を開催し、活動状況や運営状況の報告議事録を作成しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃の連絡は、ホーム長が行っている。 ユニット職員は認定調査等で、協力関係を築いている。	運営推進会議報告を4ヶ月ごとに報告しています。介護の認定更新の申請代行や困難事例の相談など連携を取っています。地域包括支援センターと空き情報の交換や大和ケアマネジャー連絡協議会と情報交換をしています。行政窓口とは極力訪問して意見交換をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に開催される「身体拘束及び虐待防止委員会」に参加した職員が、パソコン上の掲示板に記載した内容を職員間で共有し、職場で徹底的な身体的拘束をしない取り組みを行っている。	法人の研修会、「身体拘束、虐待防止」専門委員会を通して周知徹底をしています。不適切な言動の事例があれば職員同士で注意し、管理者の指導で啓蒙しています。各ユニットごとの勉強会でも周知し防止に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体的虐待だけでなく、利用者と接する時は声のトーンの工夫をし、優しい言葉かけを心掛ける等、心理的虐待防止の取り組みにも努めている。	法人の研修会やユニットごとの研修、専門委員会で周知しています。気になる言動やケアに対して、職員同士で注意し合える職場環境を作っています。管理者は職員の疲労やストレスを見受けられた場合には面談の機会を設けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「成年後見人制度」「日常生活自立支援事業」の利用対象者の対応について、職員は説明やアドバイスを行い、制度の活用が円滑に進められるよう協力し、支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を交わす段階では料金の説明は基本であるが、利用時に予測できない体調不良や、その後の経過においては、医療と連携し料金が発生することを説明し了承を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的な家庭に手紙を郵送し、心身的な面や生活の状況を伝えている。また体調の変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、心配な事があれば気楽に相談してもらえるような雰囲気作りに努めている。	コロナ禍でも玄関などでの面会の機会を作っています。家族とは2ヶ月ごとに発行する「たより」に活動状況など写真も添えて送り、常にコミュニケーションを図っています。利用者の個別の意見、要望もケアに活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニット会議や勉強会において、職員の気付きやアイデア当の意見や要望を述べる機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議や全体会議、個人面談時に意見や要望、提案を聞く機会を設けています。管理者は日常からも、職員の要望や意見など積極的に聞いています。事業所の行事やイベントなどの職員の企画、提案などは運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は利用者の状況の変化に気付き、職員の疲労やストレスの要因について気を配ってくれている。管理者は日々職員と話し合いの場を設けたり、時には現場の補助業務に携わり、職場環境の改善に努めている。	職員一人ひとりの適正な評価に努めています。現在評価項目の見直しや有給休暇の取得の奨励もしています。シフトの作成には職員の事情や希望、要望を反映しています。職員の休憩には職務から離れ自由な時間を過ごせるよう配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員の研修や外部研修を受講し、人材育成の取組みをしている。積極的にパート職員も他の職員と同様に、実技研修を受講する機会を与えてくれている。	年間の研修プログラムを整備し、新人の研修や現任者の研修を実施しています。資格取得支援があり、取得に当たって積極的にバックアップをしています。毎月講師を招いて介護技術向上の研修を行い、職員のスキルアップとサービスの向上を図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度もコロナウイルス感染状況に伴って、同業者との交流する機会が少なくなっている。今後はインターネット活用を通じて、同業者との交流会の取組みが期待される。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の生活歴等の情報を得て、帰宅願望など見られる時は、気分転換を図る工夫をしている。また、生活に馴染めるよう本人の思いを受け止め安心できる生活の支援と、信頼関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話での問い合わせや施設見学等にて、家族や本人が安心して相談いただけるよう、丁寧な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人それぞれの思いや現状を細かく丁寧に聞き、当施設において提供出来る支援を提案。困難が予想される課題においても、家族・本人必要に応じ他サービス事業所と連携を図り、前向きな支援の提供・提案を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分もいつかは年を取り、誰かの支えや助けを必ず必要とする。お互い様であり、同じ一人の人間、順番であるという気持ちを常に持って向き合っている。一方的に介護・支援される側と言う意識を抱かぬよう、言葉遣いや声掛けの仕方には注意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族や本人が少しでも不安を減らし、快適に安心してお過ごし頂けるよう、日々の様子や状態の変化についても、電話や手紙、面会時等で細かく報告と相談をしている。またその状況を分かり易くお伝えできるよう、なるべく具体的にお話する事を心掛けている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・先祖の供養を大事に毎日の日課とされている方、毎月姪御様から届く葉書、上海での楽しかった思い出、仲よしだった友達、趣味の山登りなど、それぞれの生活習慣を尊重し、時には外出や散策を設け、また会話の中で折に触れ本人の喜びや心の支え・活力を閉ざさぬよう働きかけている。	職員は馴染みの人や場との関係継続の大切さの理解に努めています。手紙や電話の交信の支援をしています。コロナ禍前は友人、知人の来訪、家族の協力で墓参りや旅行、馴染みの美容院などの継続支援もあります。在宅当時からの歌や手芸、折り紙、雑巾作りの趣味や娯楽の継続支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者が全員参加出来る誕生日会・食事会・敬老祭・ミニ運動会・クリスマス会等、他に先生を招いて行う週一回の音楽クラブで、入居者同士が関わり合い、楽しんでいただけるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在該当者は無し。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍のため、散歩はマスク着用し、近くの神社周辺としている。 買い物は職員代行に努めている。	約半数の利用者が会話で普段のコミュニケーションが取れ、希望や意向の確認をしています。意思表示が困難な人には普段の行動や表情、態度の中から把握するように努めています。また、入浴時や夜勤時の利用者と1対1で過ごせる時などにも思いを把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族の意思を把握し、起床時間・午睡・入浴時間・持ち物・嗜好品・訪問マッサージ等、馴染みの生活環境で暮らしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックと、毎月体重測定を実施している。 洗濯干し・洗濯畳み・掃除・折り紙・塗り絵・ラジオ体操・ゲーム等、一人ひとりに合わせた過ごし方に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人が自宅から施設で暮らすのは大変なこと。出来るだけ本人の生活を守るよう介護計画を作成している。	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、ケアプランの実施状況や利用者の状態変化などを話し合っています。「ケアプラン作成時期確認一覧表」を作成し、定期的にモニタリング、アセスメント、家族の意向調査を実施し、ケアプランの更新や新規作成を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々変化していく本人の精神・身体に気を配り、他の利用者にも少なからず影響があるため、気づきや工夫をスタッフで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要と思われる時は、スタッフ一同と話し合いを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今までコロナ過のため外出等控えていたが、また徐々に本人の希望も踏まえ、利用できるよう支援していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日々の体調の変化やバイタルを計り、少しでも変化のある時は家族に連絡し、医療に繋がられるよう支援している。	本人や家族了解の下、全員が協力医の訪問診療専門医をかかりつけ医としています。内科全般を始め精神科や皮膚科、眼科、耳鼻科、泌尿器科、形成外科など多岐にわたる往診が定期的にあり適切な医療が受診できます。24時間オンコール体制にあり安心した生活が送れるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	まとめ往診や、薬の在庫等限られた場面ではあるが、近況について話す事はしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の連携については出来ているのではと考えるが、入院一週間後等退院直前の様子のみでなく、知りたいと思う。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ユニット内で話し合い、共有し取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期対応を説明し同意書を得ています。ターミナル時には「ターミナル情報共有シート」に家族の希望を聞き、クリニックと事業所で話し合い、連絡手順や連絡先をまとめ、職員間で共有し支援に取り組んでいます。看取りの実績があり、振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応についてのマニュアルがあり、それに従い対応に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行っている。	日中の大型地震発生後の火災想定訓練や通報訓練などを実施しています。本年度はコロナ禍で中止になりましたが、毎年、大和消防署主催の防火実務研修会に参加し、防災意識を高めています。非常災害用の飲食料品の備蓄をしています。	飲食料品以外の非常災害用の備品の充実が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対人の仕事ではあるため、常に努めてはいる。 敬語が望ましいのだが、敬語が逆に障害になる時もある。 (堅苦しいよそ行き等言われる)	年長者に対する言葉遣いに気を付けています。同じ目線で話す、声掛けする、その人に合った対応、寄り添う支援に努め、否定をせず、先ずプライドを傷つけない支援に心掛けています。呼び掛けは名字に「さん」付けが基本ですが、本人が希望する呼称にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コロナ過により、「買い物に行きたい。」という気持ちが叶える事が出来ずに苦しいが、代行という形で努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	7時前に起床される人、9時過ぎに起床される人、様々な生活スタイルがある中で、各々に応じた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床後、自身で身なりを整えるのが難しい人には、職員が支援する事で整容が出来ている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的に食事イベントを行う事により、食べることの楽しさに触れてもらっている。 準備・片付けは殆ど職員が行っている。 (おしぼり作り・お盆拭きは利用者)	献立は職員が作成し、新鮮な食材を地元の商店から調達し手作りの食事を提供しています。利用者全員が完食しています。季節食やイベント食、出前食も取り入れています。また、定期的に食事イベントを実施し、利用者と一緒に食材を買い出しに行き、皆で調理し食事を楽しむ機会も作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	常食の方でも、硬い物は刻みにて提供している。 水分にトロミを付けたり、ゼリーにして対応している。 食事量の少ない方は、少なめにして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けを行い、歯ブラシを用意すると自分で出来る方はして頂いている。 義歯は毎日一回、夜に清潔保持の為除菌している。 自分でされる方は、やって頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自宅でPトイレを使用されていたとの事で、夜も自分で使用されている。 (介助させて頂く事もある) 尿意のある方には、その都度トイレに座って頂いている。	各個人の排泄パターンを職員が把握して、トイレ誘導を行っています。また、利用者の表情や行動からも声掛けをしてトイレ誘導をしています。排泄支援によりおむつの人やリハビリパンツの人がトイレ利用に改善しています。失禁時はプライバシーに配慮した支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	2日出ない場合、その方に合わせ冷たい牛乳・冷たいコーヒー・オリゴ糖を飲んで頂いている。 どうしてもの方には、処方されている薬を飲んで頂いている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望で、夕方に入られる方には、15分毎に声掛けを行い、安否確認をしている。 今日は入りたくない方は、次の日に声掛けを行っている。 体調が悪くて入浴出来ない時は、全身清拭を行う事もある。	入浴は、週2回、午前中、同性介助が基本ですが、利用者の希望に応じています。体調に応じてシャワー浴や清拭も行っています。入浴を嫌がる人には無理強いせず、入浴日や時間、職員を変えたりして対応しています。浴槽、手すりは可動式で浴室内にリフトを設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	高齢の方には午睡して頂いたり、リラックス出来る音楽をかけたり、眠い時に自由に寝て頂く。 ベッドよりソファで眠りたい人には、ソファでも眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋の情報共有。そのリスク等職員間で話し合い、様子を見て手を貸す。 次の医療に繋げ、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌を唄ったり、体操やゲーム、イベント時の料理や飾り物作り、業務の手伝いを行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの時期で難しくはあるが、以前のように早く買い物や外食、散歩など行けるようにしたい。	コロナ禍で外出行事は自粛を余儀なくされていますが、天気の良い日は近隣を散歩し気分転換を図っています。近所の稲荷神社への初詣や、桜の時期には海老名や宮ヶ瀬方面へ車窓からの花見としてドライブを楽しんでいます。 2階のテラスでお茶を飲み外気浴も楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っている事で安心できる人には、手元に置いてもらう。 買いたい物がある時には、今は職員が代わりに買って来ている。後で分からなくならないよう、リストにして付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	常に大切な家族の存在を身近に感じながら生活をしていただけるよう、電話や手紙を書くきっかけ作りをしている。 コロナ禍の昨今こそ、支援の必要性を感じ、実行している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	グループホームの特性を活かし、より生活の場に近い環境作りをしている。家具も馴染みのある、木製の落ち着いた色合いの物を配置している。季節を感じられる装飾品を揃えるようにしている。	共用空間は清掃、換気が行き届き清潔を心掛けています。玄関は引き戸で季節の飾りがあり、食堂兼リビングは明るくゆったりとした空間になるよう配慮しています。ソファも設置され、利用者は思い思いに過ごしています。オープンキッチンからは調理の音や料理の匂いがし、五感を刺激し家庭的な雰囲気や生活感ができるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを配置し、寛げる空間づくりをしている。また一人ひとりの利用者に合わせた居場所を提供できるよう、職員は日々意見交換し、工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、より落ち着いて過ごす事が出来るよう、本人の自宅での生活や、お好きな事を考慮した設えにしている。 自宅で使っていた家具を、持ち込んでもらえるようにしている。	居室はエアコン、ベッド、カーテン、クローゼット、照明器が備え付けです。利用者は、ダンスや机、イス、小物入れ、電気スタンド、テレビ、仏壇、家族写真、アルバムなど馴染みの物品を持ち込み本人が生活しやすいように配置し、暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人が安全に過ごせるよう、身体の能力に合わせた空間づくりについて考え、取り組んでいる。 一人ひとりのADLの変化に合わせた環境作りを、日々職員で話し合い工夫をしている。		

事業所名	グループホーム そよ風
ユニット名	3階 けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年度始めに、理念の確認と各ユニットごとに目標を定めている。 各自が個人目標に落とし込みながら、理念を共有したケアを展開する事が出来ている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍のため、実施は見合わせている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍のため、実施は見合わせている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議という形ではないが、定期的にそよ風の運営状況や利用者の様子等を、書面にてお伝えしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	適宜、管理者が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	ユニット内の勉強会において、認知症ケアを学ぶと共に、身体拘束についての理解を深め、適切なケアを実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア一つひとつについて、常に「行動制限をしていないか」「適切なケアかどうか」という意識を持ち、ユニット内で話し合える環境が整っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年度は、学ぶ機会を設定していなかった。今後勉強会を実施していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が入居の際、本人と家族に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問した時、又は電話等で家族の要望を丁寧に汲み取り、ケアなどに反映している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議等に管理者が同席し、職員の意見聞き、反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が日頃より現場に顔を出し、状況を確認。 環境条件の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍の影響により、外部での研修は難しい状態にあるが、法人内での研修や勉強会等の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍により、外部との関わり合いは減っているが、研修生の受け入れを実施。コロナ禍以前には、同業のグループホームとの交流があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者やその家族の不安等を確認し、施設に慣れて信頼して頂くための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前より、家族に不安と要望を確認。 開始する段階から要望に沿ったケアを出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に本人・家族が必要としている支援を確認する。 施設での生活が始まってからは、その様子を職員間で共有し、必要な支援の見極めを継続する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者個々の能力に沿って、出来る家事の手伝い等をしてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍による面会制限等で、利用者と家族が会う機会は少なくなってしまったが、電話による会話の機会を設ける等、家族との繋がりに配慮している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍以前は、利用者友人の面会なども受け入れていた。 馴染みの場所との関係については、途切れてしまっているケースが殆どである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は、会話の橋渡しをしたり、それぞれの時間に座る席等も考えて案内するようにしている。 利用者に日々楽しく過ごしていただく事に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も、家族より電話等いただく機会もある。 そよ風の現状報告をしたり、家族の経過を話し合ったりしている。 またいつでも立ち寄ってもらいたい旨も伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・家族の希望を踏まえて、出来るだけ希望に沿えるようスタッフ一同努力している。 利用者が不公平を感じないように、常に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族共、徐々に関わり合いを深めていきながら、信頼関係を築き理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事量や排泄、睡眠状況やバイタルサインをしっかりと把握し、異常があれば家族に報告している。 また必要とあれば、協力医療機関に繋げる事もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	半年に一度は必ずモニタリングを行い、フロア内で担当者会議を行っている。 本人や家族へ意向をしっかりと聞き、定期的なアンケート調査も行い、不安に思われていることが無いか確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	出勤時には、必ずPCの介護情報を確認し、業務に入る時には職員から職員への再度口頭で申し送りを行っている。 入居者の変化や気づきがあった場合、皆で共有し計画書の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響から、面会制限や外出できない日もあった。 面会の代わりに本人と家族が繋がれるよう、テレビ電話の手伝いをしたり、文通の手伝いも行った。 手紙は皆で読めるので、とても喜ばれていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響から、地域資源との協働は困難となった。 施設ホーム内で、季節行事や誕生会、他に季節の壁飾りや季節の生花を飾ることで、楽しめる暮らしが出来ているのではないかと。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の意向に合わせ、医療と関わられるように手配している。 往診時には、日頃の様子を正確に伝え、スムーズな医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	いつもとは様子が違うことがあれば、記録に残し申し送りをする。 急に健康状態が悪化したら、訪問看護師へ連絡をする。 日頃の様子や状態の変化を正確に伝え、またその内容を記録や申し送りをしていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については、まだ関わりが無い為わからない事がある。 ※自己評価担当職員が、まだそよ風での入退院に関わっていない。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化（ADLの低下）がある時には家族に連絡をしたり、カンファレンスの場を持っている。 →ホームでの本人の情報を家族にも理解しやすいように。 食事量や体重の変化などのデータを元に分かりやすく伝えるよう心掛ける。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを確認しながら、本人の苦痛を最小限に出来るよう、職員で手分けをしながら対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震があった時は、入居者が慌てないように声掛けをする。家具や荷物が倒れて来ないように、日頃から注意しておく。 揺る居室を見回り、全員の安全を確認する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	なるべく尊厳を損なわないように声掛けをしている。 着替えの時はカーテンを閉めて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中では、何をしたいか、またしたくないかを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく希望に沿うようにしているが、本人の為にならない事には、出来ない事を説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、髪に寝ぐせがついた時や髪の長い方は、束ねるなど身だしなみを整えるようにしている。 時には口紅等をつけて気分を上げたりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	時間に余裕がある時は、出来る人に盛り付けの手伝いをしてもらったり、食べ終わった食器の片づけを手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	パンが好きではない人には、ご飯を出している。 一日を通じて、30品目は摂れるようにしている。 水分は朝多めに摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	なるべく毎食口腔ケアを心掛けている。 歯磨きが出来ない方には、ロールブラシを使って、口の中の汚れを取っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	車椅子の方も、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、朝牛乳を飲んでいただいたりしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の声掛けをし、気が進まないような時は次の日にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの日々の状況や、身体の状態を把握し、本人の気持ちを考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	日々状態の変化など気を付けて観察し、服薬に間違いのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の好きなこと、楽しく思われていることを見つけて、つまらないと思われたいしないよう。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナの為出来ていないが、努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っている事の安心感を良く理解しており、家族や本人と良く話し合い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、出来る限り対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や植物を置いたり季節の飾りつけをしたり、日々の清掃等で生活を保って気持ち良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやイス、ソファ等の位置は、その時々の利用者の状況に合わせて配置したりし、居心地の良い雰囲気づくりを考えて実施している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅から持って来られたものを側に置き、時には家族にこちらから提案をして、本人が少しでも過ごしやすい空間づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々の生活として、出来る事をやっていただいたり、お手伝いをお願いしたりして自立・安全に繋がるように支援している。		

2021年度

事業所名 社会福祉法人プレマ会 そよ風

作成日： 2022年 3月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 上記項目内容に関して、現時点でもコロナ禍が終息しない中、利用者と家族との面会の機会の設定が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 外出制限もある中で、利用者のADLを可能な限り維持していく。 家族の知りたい情報を再確認する。現状を情報共有した上で、今可能な支援のあり方を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 外出可能な範囲を確認。 ※昨年も人混みを避けたドライブや車窓から観るお花見を実施した。 施設敷地内（ベランダ含む）での外気浴・日光浴の実施。 	1ヶ月 ～6ヶ月
		※2021.10～2022.01月上旬までは、予防に徹しながら面会を可能としてきた。家族アンケート内でも「会っていないため、状況が分かりづらい。」との意見があり、家族との情報共有が乏しくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 市中の感染状況を確認し、無理のない範囲での面会制限解除を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物内での歩行訓練や機能訓練継続。 家族への手紙や写真送付にて、近況報告を行っていく。（実施中） 窓越し面会→玄関先面会→居室面会段階を踏んだ面会可能な設えの工夫と家族へのアナウンスの実施。 	
2	35	○災害対策 昨年の評価内容にあった災害対策は実施したが、更なる安全対策・備蓄の充実を望まれている。	<ul style="list-style-type: none"> この地域で想定される災害の再確認。 現在の備蓄内容と、さらに用意すべき装備品の再確認。（ヘルメットや電灯類 等） 	<ul style="list-style-type: none"> そよ風内会議で職員と確認。 法人内他施設の状況を確認。 必要な物を増加していく。 保管場所も検討する。 	3ヶ月 ～12ヶ月